

# アイヌの人たちの歴史・文化等に関する実践

～『白人（ちろっと）小のここがスゴイ』～

幕別町立白人小学校 学級数 14（校長 山田 知史）

## I 本実践の概要

総合的な学習の時間において、児童がアイヌの人たちの歴史や文化等への理解を深めるとともに、探究的な学習を通して積極的に社会に参画しようとする態度を養えるよう、各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導を行った。主な体験的な活動は以下のとおりである。

- 第4学年・・・「白人小のここがスゴイ」をテーマとしたアイヌ文化に触れる探究的な学習
- 第5学年・・・第4学年までに身に付けた概念的な知識を活用したアイヌ文様作り
- 第6学年・・・修学旅行における「ウポポイ（民族共生象徴空間）」での調査活動

## II 実践の内容

### 1 取組の様子

白人小学校では、学校名の「白人（ちろっと）」がアイヌ語で「鳥が多く生息する沼」という意味であることから、アイヌ語の地名を調べたり、アイヌの人たちの歴史や文化等に触れたりするなどの探究的な学習を行っている。歴史的にもアイヌの人たちとの関係性が深く、それらを効果的に教育課程に取り入れながら、体験学習等を通してアイヌ文化を学んでいる。

第4学年では、自分たちが住む地域とアイヌの人たちの歴史や文化等のつながりを理解することをねらいとして、外部講師を招聘した「アイヌ文化教室」を実施している。十勝のみに伝わる伝統舞踊「バッタキウポポ」を実際に踊る経験を通して、舞踊による情景の表現や、後世へ伝承するなどの文化を学んでいる。



【第4学年「アイヌ文化教室」の様子】

第5学年では、アイヌ文化が継承されている意味について探究的に学ぶことをねらいとして、「アイヌ文様の作品づくり」を実施している。伝統的なアイヌ文様を折り紙で表現する方法や、文様の特徴を表す意味などを学んでいる。活動を通して完成した作品は、校内装飾として活用するなど、全校児童がアイヌ文化を身近に感じられるよう取り組んでいる。



【第5学年「アイヌ文様作品づくり」の様子】

第6学年では、アイヌの人たちの歴史や文化等と自分たちが住む地域との今後のつながり方について自分の考えを明確にすることをねらいとして、「ウポポイ（民族共生象徴空間）」の見学を実施している。これまでに学んだことを身近に感じることができる施設の見学を楽しみにしている児童が多く、既習事項と施設見学を通して学んだことを総括して、アイヌ文化についての発表資料をまとめる活動を行っている。



【第6学年「ウポポイ」見学の様子】

### 2 児童の感想

第4学年：『「ちろっと」の意味を知って、アイヌ文化のことをもっと知りたいと思った。』

第5学年：『「白人」の他にも面白い名前や読み方の地名を知ることができてよかった。』

第6学年：『アイヌの人たちの踊りをみんなで踊ったのが楽しかった。』

「今度は、家族とウポポイに行って、自分から色々なことを教えたい。」

## III 成果と課題

### 1 成果

- ・「ちろっと」がアイヌ語であるなど、アイヌ文化を身近に感じることができる学習を通して、児童が主体的にアイヌ語及びアイヌ文化に触れ、理解を深めることができた。
- ・総合的な学習の時間として探究的な学習を学年で継続することで、児童が段階的に理解や考えを深めるとともに、ふるさとを大切にす態度にもつながった。

### 2 課題

- ・地域に居住している郷土の文化を調べている方や、アイヌの人たちの歴史や文化等に詳しい方などの外部人材を効果的に活用するなど、学習の充実を図る必要がある。